

はじめに

美馬郡医師会長 和田 昇



21世紀の初頭を機に、美馬郡医師会報「てあて」を創刊する運びになりました。会員はもとより、職員や家族の方々にも投稿の幅を広げて、年一回の発行を目指している。発刊の動機は、従来からあった「FAXまつり」の継続と発展である。「FAXまつり」は、平成2年、当時の真鍋五郎会長が考案された独創的な企画で、一方通行のFAX通信に工夫を加え、医療機関側からの近況報告や様々な情報を募集し編集されたものであった。現在では、Eメール等により、相方向性の情報交換は容易となつたが、当時寄せられた隨想、詩歌や俳句、書画、漫画などの作品群は、多少は稚拙な面もあったが、生原稿に似た新鮮さと暖かさに溢れていた。

100余年の歴史を誇る美馬郡医師会の中で、諸先輩方は地域医療の向上にとって、医療機関相互すなわち会員相互の理解と協調が最も重要であると看破され、会員の親睦や和を計るためにもコミュニケーションの場を作り、懸命な努力を重ねられてきた。このことは現在でも、医師会研修旅行、奥様の会、三師会ゴルフ大会など様々な形で引き継がれている。時には、利害が相反することもある地域医療の中にあって、事あるごとに強固な団結力を示す美馬郡医師会は、「美馬モンロー主義」と揶揄されることもあるが、これは先輩達の残された貴重な財産であると考えている。

IT革命の大号令のもとに幕を明けた21世紀であるが、内にあっては医療構造改革、外にあっては同時テロ事件勃発と云う波乱の幕開けとなった。この様な世相の中にあって「てあて」が「FAXまつり」の新鮮さと暖かさを継承し、会員相互にやすらぎと地域医療に懸ける力を与えてくれる会報として育ってくれることを念願している。

最後になりましたが、本誌の発刊にむけて、貴重な玉稿をお寄せいただきました多くの方々、また編集の場を快く提供していただいたホウエツ病院、そして多忙な中を編集の労をとっていただきました斎木喬編集長はじめ編集委員の方々に心から感謝申し上げます。